

11月24日 浦河沖の地震 — 近地強震波形による震源過程解析（暫定）—

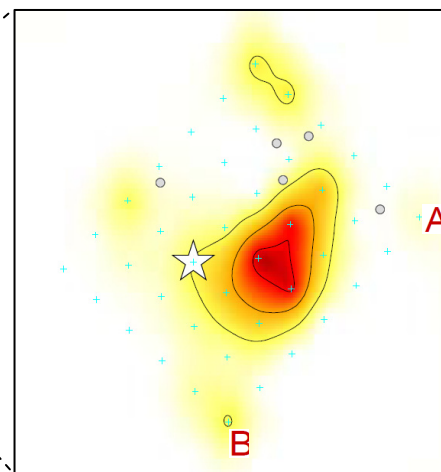
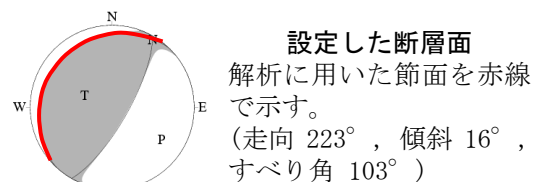
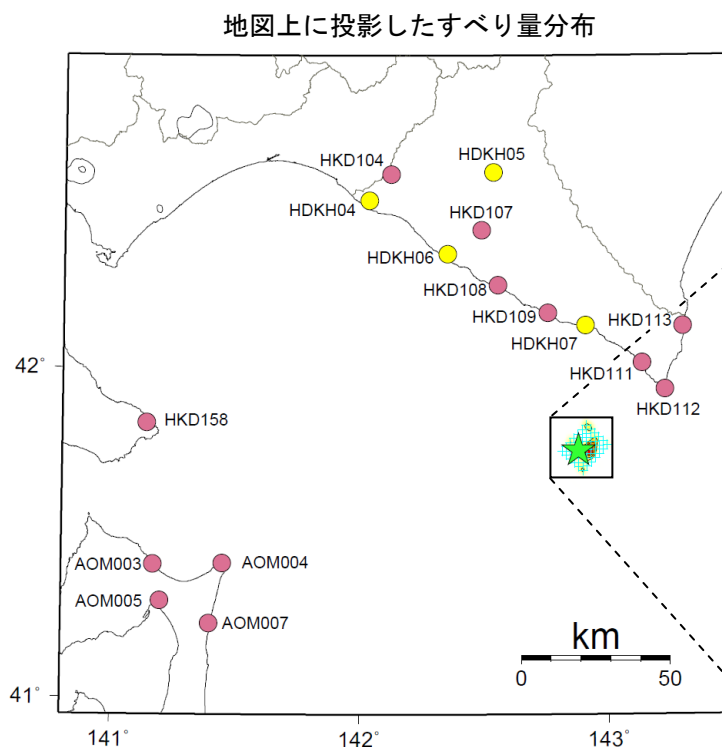
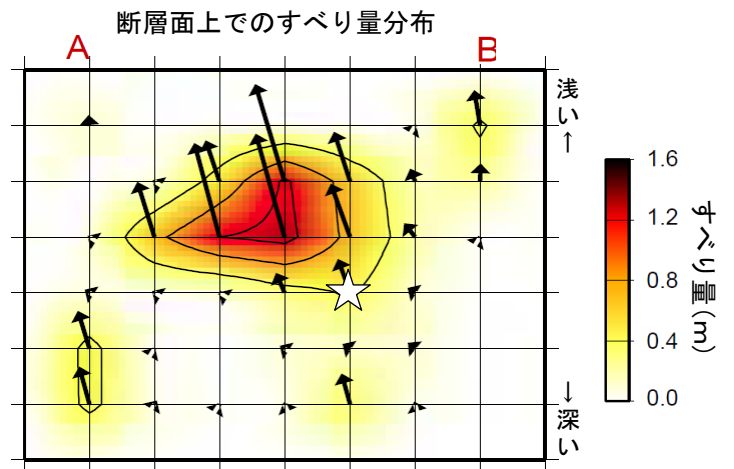
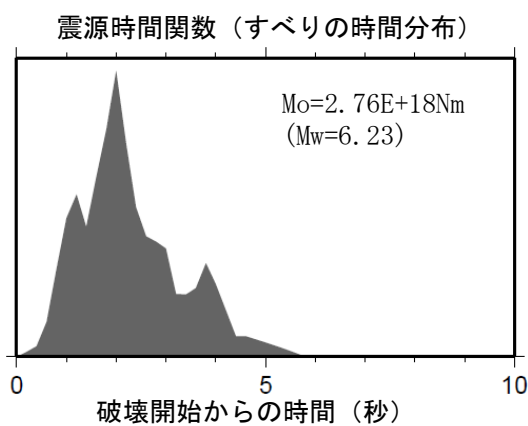
2011年11月24日19時25分に浦河沖で発生した地震（ $M_{JMA}6.2$ ）について、独立行政法人防災科学技術研究所のK-NET及びKiK-netの近地強震波形を利用した震源過程解析を行った。

破壊開始点は気象庁による震源の位置（ $N41^{\circ}45.0'$ 、 $E142^{\circ}53.2'$ 、深さ43km）とした。

断層面は、気象庁CMT解を用いた。2枚の節面のうち、観測波形をよく説明できる北西傾斜の節面（プレート境界に調和的な面）を仮定して解析を行った。

主な結果は以下のとおり（この解析結果は暫定であり、今後修正することがある）。

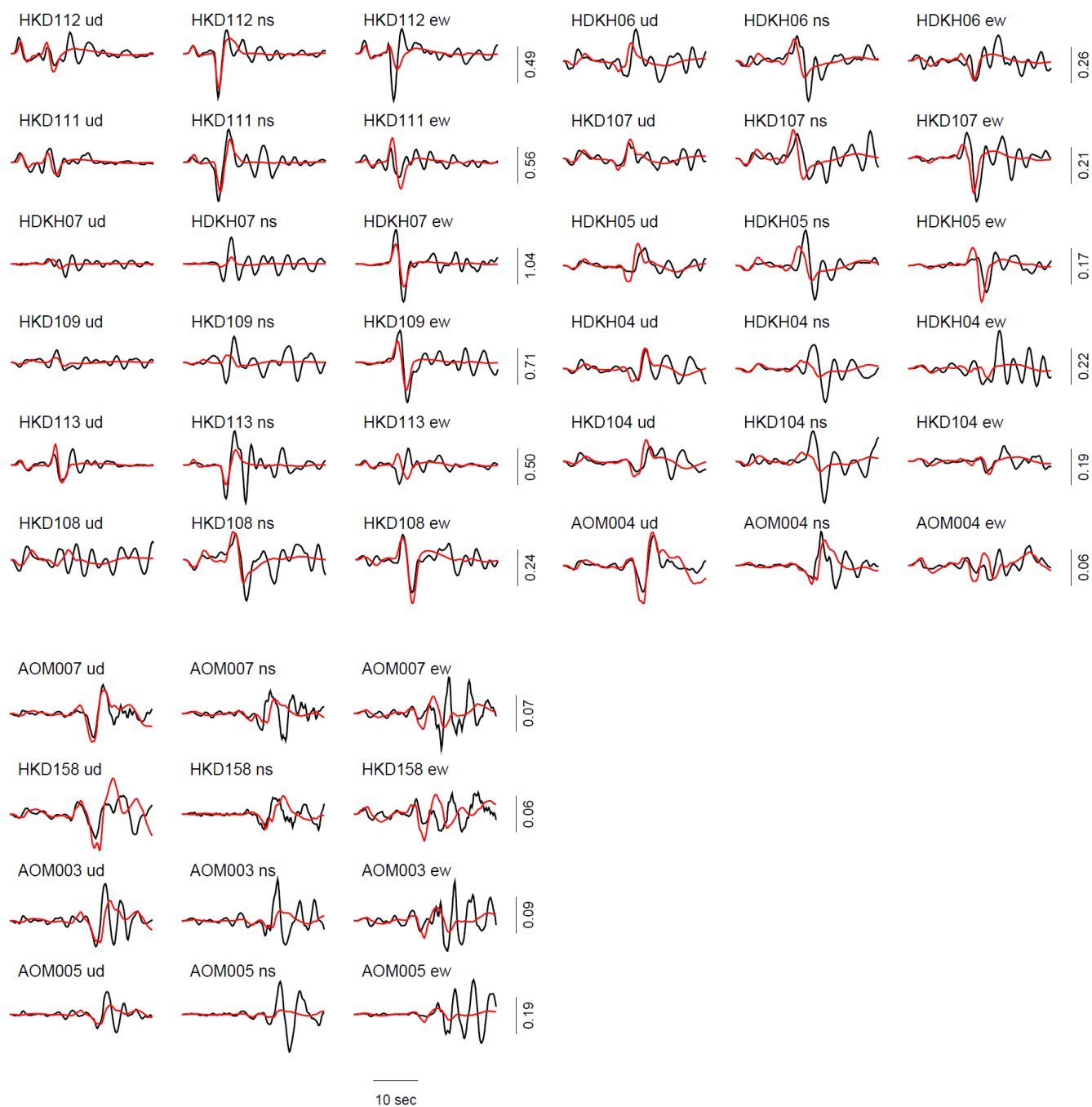
- ・ 主なすべりは初期破壊開始点よりも東側の浅い部分にあった。主な破壊継続時間は約4秒間であった。
- ・ 断層の大きさは長さ約8km、幅約6km（最大破壊伝播速度を2.2km/sと仮定した場合）、最大のすべり量は約1.3m（周辺の構造等から剛性率を58GPaとして計算）。
- ・ モーメントマグニチュードは6.2であった。



解析に使用した観測点をあわせて示した（独立行政法人防災科学技術研究所のK-NET（●）およびKiK-net（○））。

☆は本震の破壊開始点を示す。
●はこの地震の発生から3日以内に発生した地震の震央を示す。

観測波形（黒：0.05Hz-0.2Hz）と理論波形（赤）の比較



振幅の単位は cm/s